

## 第2回農業ITカンファレンス（青森）

衰退している日本の農業を活性化するためにIT企業の役割は決して小さくはありません。農業の6次化やTPPへの交渉参加等が叫ばれる中、農業ITに取り組むベンダーと農業に関心のあるIT企業が連携してビジネス展開を行うことが重要と考え「IT企業と農業と地域の活性化」に取り組むカンファレンスを青森県で開催しました。

5月14日(火)

### (1) 13:20～13:50 基調講演

青森県農林水産部農商工連携推進監の八桁幸雄様から青森県の取組と方向性について示されました。本カンファレンスに関連した「産業・雇用分野」の中から「攻めの農林水産業を軸とした青森食産業の充実・強化」について話されました。それらを実行していくための課題として次の4点をあげられ、「情報・交流が不足し互いの存在を知らず、信頼関係も構築されていない」「生産者や小規模食品製造業者は、商品開発のアイデアは持っているが、実行するノウハウがない」「農林水産物は県外出荷への依存が高く、県内企業が県内の原料を調達できない」「食品加工施設整備が進んでいない。特に中間加工分野の整備が遅れている」この問題は青森県に限ったことではなく、農業IT推進するヒントが隠されていると感じました。



AISA 井上副会長挨拶

### (2) 13:50～15:00 セミナー

生産者の立場から、有限会社ゆめりんご 代表取締役 平井秀樹様から6次化の取組としての観光農園や地元加工業者と連携したジャムやスイーツ販売などの事例を話されました。また、ITコーディネータ兼新規就農者として果樹農家でもある堀明人様からは日本農業の現状とITを活用した農業管理のお話を頂きました。



基調講演

### (3) 15:15～17:35 ITソリューション

IT事業者によるソリューションの紹介。各社に共通していたことは農業は半世紀前の町工場であり、「おやじさん」の経験と勘がすべてで、若者は見て覚える状況になっているという事です。今後、営農者の高齢化と引退に伴い、技術が継承されなくなる恐れがあり、そこを如何にしてITが支えていくかという「見える化」と「データベース化」に尽きると思います。また、植物工場による6次化への取組も紹介され、天候に左右ず、年間を通じて安定的に農作物が供給される仕組みなども紹介され、農家が儲かる仕組みを提案していく事が重要です。



ITソリューション

### (4) 17:45～20:00 交流会

ホタテ尽くしの料理と青森銘酒「田酒」を飲みながら交流会。夕方のNHKニュースでもカンファレンスが紹介されました。



水稻生産組合視察

5月15日(水)

### (1) 10:00～15:00 視察会

春の訪れが遅く、本来ならリンゴの花が満開のはずである中、水稻生産組合とリンゴ農家の視察。なかなか見ることでできない農作業の現場でお話をお聞きしました。今回のカンファレンスで学んだことを活かして、今後の農業ITへの取組に役立てていきたいと思ひます。（ANIA事務局 武田雅哉）



リンゴ農家視察